

## インタビュー

# 鉄スクラップを先進設備と技術で製鋼原料に再生 スローガンは「安心、安全、信頼、MARUEI」

諏訪 丈晴 株式会社丸栄代表取締役社長



す わ たけはる  
諏訪 丈晴 氏

- 1962年 埼玉県久喜市出身
- 86年 明治大学法学部法律学科卒業
- 同年 マキウラ鋼業株式会社入社
- 88年 諏訪商店入社
- 90年 諏訪商店から株式会社丸栄に法人改組、同時に常務取締役就任
- 2006年 代表取締役社長就任
- 10年 野田工場操業

久喜市鷲宮工業団地にある株式会社丸栄は、鉄スクラップのリサイクルと産業廃棄物の収集運搬・中間処理を行う会社である。

1947年、諏訪社長の祖父が鉄スクラップを扱う古物商、諏訪商店を創業。1983年に父の榮一氏（現会長）が鷲宮工業団地に進出し、株式会社丸栄を設立する。大型シュレッダー導入など設備の大型化を進め、同社の礎をつくるとともに大きく発展させている。2006年に社長に就任した丈晴氏は、「安心、安全、信頼、MARUEI」をスローガンに、環境保護と地域社会に必要とされるリサイクル企業を目指し、社員一丸となって資源の高リサイクル率達成を追求する。2010年1月には、千葉県の野田市に新工場を建設、2工場体制を

スタートさせた。

「当社には頑張っている社員がたくさんいます。そうした人たちを幸せに、希望をもって働ける会社にすることが自分の仕事」と、諏訪社長は語る。

### 祖父が鉄スクラップの古物業で創業 会長の工業団地移転の決断が業容拡大の礎

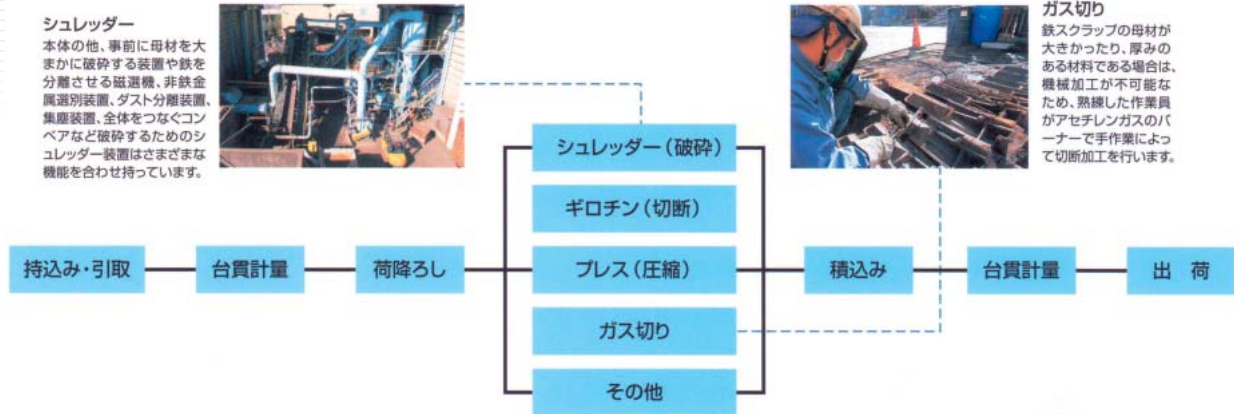
—工場では大型機械設備に圧倒されてしまっていますが、最初はどんな仕事から始まったのでしょうか。

祖父の諏訪勝三郎が、戦後に鉄スクラップを中心とした古物業を鷲宮町（現久喜市）で始めたのが創業です。1967年に代表を父の榮一（現会長）に交代し、工場を鷲宮工業団地に全面移転しました。

会長が仕事を始めたころは、集めてきた缶詰の缶を足でつぶして針金で結束し、トタン板で囲って、それを人夫が担いでトラックに積んでいたようです。それが、高度経済成長期に入って大量生産大量消費の時代になると、簡単なクレーンを使って積むように変化。そうした自動化や機械化が進む中で、父は250万円の2tトラックを10万円の月賦で購入するところから始めたそうです。みんなが月賦を払えるかどうか迷っていたところを「大丈夫、やってみよう」と、それが最初の大きな決断だったと言っています。次に4tトラックを購入、次第に自信が付き鉄スクラップを圧縮する油圧式機械を購入するなど機械化を進めてきました。

そして、最も大きな決断だったのが、1983年の鷲宮工業団地への全面移転です。工業団地に入るには製造業であることが条件とされ、「諏訪さん、鉄スクラップ業は卸売業だから

## 鉄スクラップ 古物商許可



持込み・引取られた鉄スクラップが製鋼原料として出荷されるまでの流れ

だめですよ」と、断られたそうです。すると、会長は当時の通産省や社団法人鉄リサイクル工業会と交渉の末、正式に許可を受けて工業団地に入ったというエピソードがあります。移転により、工場面積は3,000坪から4,000坪と広がりました。

そして、さらに大きな賭けが数億円を投資した大型シュレッダーの導入です。高度経済成長期を経て鉄スクラップの取扱量が順調に増加してきたということもありますが、これだけの大型機械を導入した会社は少なく、会長や社員の頑張りがあったからこそだと思います。その結果として、業容も大きく拡大し現在に至っています。

——驚宮工業団地とは、どんな工業団地ですか。

国の中小企業育成を目的とした高度化事業で造成された工業団地です。驚宮近隣の騒音や振動などの公害を出す14社を核に、他の企業も誘致して約45社で協同組合を設立してつくられました。榮一会長はその立ち上げから関わり、驚宮工業団地協同組合の理事長を組合設立から2009年までの28年間務めてきました。

## リサイクル事業と廃棄物処理事業が2大柱 環境マネジメント ISO14001の認証取得

——現在の事業内容と設備について、簡単に説明していただけますか。

リサイクル事業と産業廃棄物の適正処理事業が2つの大きな柱です。

まず、リサイクル事業ですが、回収された鉄スクラップを先進設備の大型シュレッダーで破碎加工したり、通称ギロチンと呼ばれる機械で厚みや長さのあるものを圧縮しながら切断するシャーリング加工を行ったりして、自動車ボディや自動販売機などの鉄スクラップを製鋼原料に加工する事業です。

自動車で作業の流れを説明すると、燃料タンクやエンジン、足回りがはずされた自動車を解体業者から集荷します。自動車ボディにはシートやフロントガラスなどの非金属もありますから、高速で回転する円筒形のドラムに取り付けられたハンマーで細かく粉碎し、鉄・非鉄金属・非金属に分別する破碎（シュレッダー）加工をします。非鉄金属はさらにアルミや銅などに分別。鉄と非鉄金属はリサイクルされ、非金属は廃棄処分となります。当社のシュレッダーは、自動車ボディなら1



持込まれた鉄スクラップを鉄・非鉄金属・非金属に分別するため、高速回転する円筒形のドラムに取り付けられたハンマーで細かく破碎（シュレッター）加工する大型設備

時間に60台を処理する能力があります。

また、自動販売機は1ヶ月で約700台をリサイクルしています。古く汚れた自販機では飲み物が売れないことに加え、省エネ対応機種、あるいは電子マネー対応機種への買い替えなどの理由で、自動販売機は3年から5年のサイクルで交換されています。自動販売機は、基本的に手で選別されます。冷却するためのフロンガス、蛍光管、電池を回収、アクリル板も原料として再利用できるので分別します。そして、最終的に残った金属ボディを破碎加工や圧縮加工して、規格どおりの大きさの製鋼原料にするのがリサイクル事業です。

次に、2つ目の事業の柱の産業廃棄物処理については、一般企業から出てくるプラスチック、ゴム、ガラスくずなどを、破碎・切断・圧縮して容量を小さくするなど最終処分をしやすいように加工しています。そうした過程で、金属が少しでもあればそれを回収します。

産業廃棄物中間処分業許可を取得し、コンプライアンスを遵守。環境汚染の負荷を最小限にとどめるように、責任を持って中間処理に取り組んでいます。また、産業廃棄物収集運搬業の許可も取得し、産業廃棄物の処理を業者に委託したい方と受託する業者の間に立

ち、有料でお客様の産業廃棄物を運搬する業務も行っています。

——2つの事業の大きな違いはなんですか。

リサイクル事業は自動販売機や自動車ボディなどの鉄スクラップを買って機械加工し、製鋼原料として製鋼所に販売しています。一方、産業廃棄物処分事業は金属が少なく、加工して最終処分にまわすので、お客様からお金をいただいています。有価物で売却できるのか処分するのか、それが大きな違いです。端的に言えば金属が多いものか、金属がほとんどないものかでお金をお支払いするかいただくかということです。

——廃棄物処理は、コンプライアンスを強く言われていますが、どのような取り組みをされていますか。

当社は、環境マネジメント ISO14001の認証を取得していて、リサイクル率を上げるために取り組んでいます。最終処分も焼却できるものは焼却して、熱回収や蒸気回収でサーマルリサイクルしています。また、焼却した残渣にも銅分がいくらか入っているので、それは精錬所に持って行ってリサイクルしています。そうした取り組みによって、埋め立て処分は半分以下に減ってきています。

中でも一番注意を払っているのがフロンの扱いです。自動販売機のフロンは抜き取ってボンベに回収してメーターで確認。その数量とフロンを破壊する会社での数量と照合する二重チェックを行っています。こうした取り組みがお客様の信頼を獲得して、取引が増加してきています。

### 野田工場新設で2工場体制がスタート 中国の製鋼メーカー傘下の企業進出を危惧

——今後の事業展開について、お話しいただけますか。

2010年1月に千葉県野田市に工場を建設し、弟の専務が工場長として赴任しました。まずはそこを軌道に乗せ、本社工場と2工場体制でうまくやっていけるようにすることです。そして、さらにニーズがあれば新工場の展開を考えていきたいと思っています。

これは衛星構想というか、大きな設備を持つ本社工場を中心に半径30キロ以内で、埼玉以外の県毎に集荷拠点を整備する考えです。工業専用地域にコストを考慮して1,000坪から1,500坪以内、県毎というのは産業廃棄物は県をまたいで移動させることが厳しいことからです。まず、千葉県に工場をつくりましたので、チャンスがあれば茨城県、栃木県、群馬県に工場を建設して3工場体制、4工場体制というようにしていきたいと思っています。

——リサイクルに注目が集まっていますが、業界の展望についてどうお考えですか。

我々の業界は、製造業の景気がピークから落ち込むときに設備等の廃棄物がたくさんでてくるので一番いいのです。バブル崩壊後、大型シュレッダーを導入した後が当社としては一番取扱量が多いときでした。2008年のリーマンショック後の下降局面でも廃棄物はたくさん出てきました。

しかし、2009年以降、景気が上向いてくると廃棄物は減ります。そこに、リーマンショック以前の景気が良かったときの設備投資の償却が重くのしかかり、耐え切れなくなるところが出てくるかもしれません。今まで、我々の業界はめったなことでは倒産しませんでした。2011年は底になるのではないのでしょうか。

ただし、それで競争相手が減るかといえ、破綻した会社が残した土地、建物、機械に中国大手製鋼所の傘下の会社が入ってくることが危惧されます。韓国ではスクラップの需給率が100%に近いところまでできていますが、



厚みや長さのある母材を一定の長さにするため圧縮しながら切断（シャーリング）加工する大型設備。通称「ギロチン」と呼ばれている。

中国はまだ100%ではありません。日本のスクラップは非常に魅力的なはず。当然、それを日本から買うよりも日本に現地法人を設立したほうが安定的に入ると考えるでしょう。

——これからは、中国との競争も視野に入れなければいけないわけですね。

### ◆ 頑張っている社員に報いることが仕事 盛和塾に入塾、京セラフィロソフィーを学ぶ

——2006年に社長に就任されましたが、会社経営で大切にされていることはなんですか。

まず会社のスローガンに「安心・安全・信頼・MARUEI」があります。スローガンの基本姿勢は、当社がリサイクル事業を行うには、地域や業界の皆様、もちろん社員にも安心していただかなければできません。環境関連の法規則を徹底的に遵守して、そうした方々の信頼を勝ち取っていくことです。

次に、経営理念に「資源リサイクルを通じて社会に貢献し、丸栄に関わる全ての人々の繁栄を目指す」とありますが、丸栄に関わる全ての人々の一番は社員です。ただし、全ての社員ではなく、「俺は会社のため頑張っている」と思って働いている人、会社はそうい

う人たちのためのものです。そして、ありがたいことに当社にはそういった社員が多数います。全社員のベクトルが会社の目標と同じ方向を向いているときには当然、社員一人ひとりのための会社となるわけです。それが大事なところで、社員が同じ想いを共有しないと会社は大きくなっていきません。社員はハローワークから採用をしているので、必ずどこかの会社で働いた経験のある人ばかりです。前いた会社よりも当社のほうが良いと思って働くのならば、一生懸命にがんばって責任者のポストを目指してほしいのです。

複数の工場の建設を考えているのも、そのように頑張っている人に責任と権限というポストを用意するという意味もあります。社長として自分がよければそれでよいのではなく、社員を幸せにすることが大事だと思っています。

——経営についての勉強はどのようにされているのですか。

2009年2月から稲盛和夫さんが塾長の盛和塾に入塾し、京セラフィロソフィーやアメンバー経営について勉強しています。塾長の講演はもちろん、教えを受けた人の経営体験発表は具体的な事例を聞くことができるので、非常にわかりやすく勉強になっています。

### 好きな言葉は One for All, All for One 尊敬する人は稲盛和夫氏と西郷隆盛

——座右の銘と尊敬する人物、そして趣味などについてお聞きます。

好きな言葉は、One for All, All for One（一人はみんなのために！みんなで一丸となって！）です。ラグビーは、不動岡高校でやっていました。すぐ上の先輩が同好会にもかかわらず県大会でベスト8に2度も入って同好会から部に昇格した記念すべき1期生です。

そんなことからこの言葉に出会いました。

——尊敬する人物は、稲盛和夫さんですか。

稲盛さんはぶれたところがまったくなく、尊敬できる人です。それからもう一人、稲盛さんと同じ鹿児島県出身の西郷隆盛です。稲盛さんはよく利他の心とおっしゃいますが、私利私欲に走らず他人のためにという心を持った人が西郷隆盛だと思います。西郷隆盛は最後の戦いをしたくなかった、部下たちのために立ち上がったというのが私の見解です。

趣味は、ダイエットのために始めたジョギングとウォーキングです。4年前に血圧が急上昇して栄養士さんから体重を落とすように指導を受け、ダイエットに挑戦しました。まず、禁酒と食事の量を半分にして体重が減ったところで、毎晩1時間のウォーキングを日課にしました。雨が降っても傘をさしてウォーキングを続け3ヶ月で15キロの減量に成功。今は毎日ジョギングをしています。そろそろ10キロマラソンにエントリーしようかと思案中です。

——とてつもない大きな設備に圧倒されました。会長様の志を受け継ぎつつ、廃棄物処理業から環境を守るリサイクル企業へと今後の発展が期待されます。

本日は、ありがとうございました。

### 株式会社丸栄の企業概要

創業	1947年
設立	1990年
資本金	1000万円
売上高	18億7千万円（2009年12月期）
従業員	35名
本社	〒340-0203 久喜市桜田5-18-9
電話	（本社工場）0480-58-1027
ホームページ	<a href="http://www.eco-maruei.com">http://www.eco-maruei.com</a>
取引店	久喜支店